

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

# 思川だより

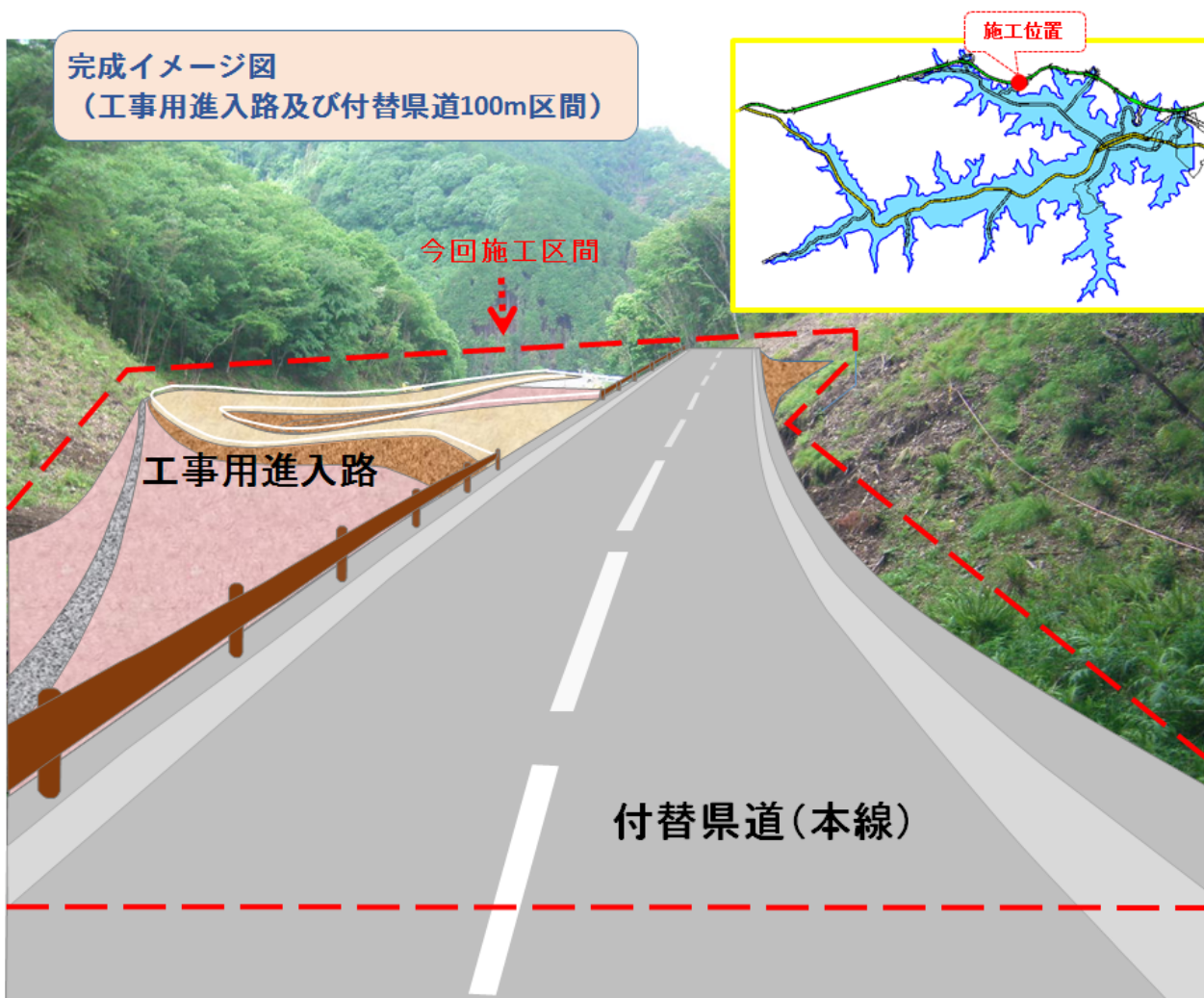
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

## 付替県道工事の実施状況報告（県道上久我栃木線）

あわざわ

栗沢進入路中流工区その2 他工事を実施しています

現在、思川開発建設所では、鹿沼市上南摩町の栗沢地区において県道上久我栃木線の付替工事として、「栗沢進入路中流工区その2 他工事（H27.3.12～H27.12.28）」を行っています。この工事は、付替県道における栗沢周辺工事区間の進捗を図るため、工事用進入路2路線を造成するとともに、付替県道の本線約100m区間の道路の基盤を造成するものです。



工事現場は山間部にあり、斜面部が多く見通しも悪いため、ダンプトラックで土砂を運搬する際の車の接触防止対策など、施工中の安全に特に注意しながら進めています。また、工事期間が梅雨や台風時期と重なるため、急な雷雨や突風への備えに万全を期すように努めています。

あわせて、環境保全にも十分留意しており、騒音・振動や粉塵の発生を抑える対策を施すとともに、工事現場周辺で確認されている動植物の重要種については、その対応について専門家の指導・助言を受けながら工事を進めています。

工事にあたっては、工事関係車両の一般道通行時におけるマナー向上などを心がけ、地域の皆様のご迷惑とならないよう努めて参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



【工事着手前（平成27年3月下旬）】



【工事実施状況（平成27年6月下旬）】



## アユ釣り解禁情報

南摩川、黒川、大芦川などでアユ釣りが始まりました

思川開発事業に係る南摩川、黒川、大芦川などに漁場をもつ小倉川漁業協同組合と黒川漁業協同組合の今年度の釣り情報（アユ釣り解禁）について、お知らせします。

黒川漁協管内では6月13日（土）に、小倉川漁協管内では6月20日（土）に、それぞれアユ釣りが解禁されました。黒川漁協管内では、県産のアユがよく釣れ、70匹超えの釣果のあった人もいたようです。小倉川漁協管内では、栗野運動公園周辺や引田橋周辺で30匹超えの人もいたようです。

黒川や大芦川などの清流で育つ香り豊かなアユ（香魚）を求めて皆様も釣りに出かけられてみてはいかがでしょうか。



【貝島橋付近】



【清洲橋付近】

## 鹿沼東小学校の児童が稚アユ放流を体験



アユが大きく育つことを願って！

4月22日（水）に黒川のふれあい橋付近で、鹿沼東小学校の4年生の児童103人が稚アユの放流を体験しました。これは黒川漁業協同組合が、子供たちに自然に触れ合ってもらうことを目的に開催したものです。

子供たちは、絶好の晴天の下、組合員の方のお話でアユの生態などを学んでから、5～7cmの稚アユをバケツに入れてもらい、ゆっくりかつ慎重に黒川に放流しました。また、児童らがブルーシートを持って作ったスロープを目掛け、水槽付きの車から稚アユを一気に放流し、その瞬間水しぶきをあげながらスロープを下って川に入っていく大量の稚アユを見て、子供たちも大喜びでした。この放流体験は、毎年行われており、黒川漁協としては今後も続けていく予定とのことです。

当日、黒川漁協では、御成橋から貝島橋の間で稚アユ150kg（約3万匹）を放流、順調に育った稚アユは、解禁日には約20cmに育って、釣り客を楽しませるとのことでした。



【バケツで放流】



【一気に放流】

### 思川流域のご紹介

第4回

## 麻づくり 日本一の鹿沼市

思川の上流、以前は粕尾川と小倉川と呼ばれた川が流れる鹿沼市。今回は、鹿沼市が日本一を誇る「麻づくり」について、ご紹介します。

栃木県産の麻は「野州（やしゅう）麻」として優れた品質が認められており、昔から有名です。県内でも特に鹿沼市は、麻の生産面積が日本一です。全国の麻の栽培面積のうち、89%を栃木県が占めており、栃木県のうちの85%を鹿沼市が占めています（平成22年時点）。

【次頁へつづく】



【前頁から】

思川の源流となる旧栗野町（平成18年に鹿沼市に合併）は、昔から麻づくりが盛んで、明治時代に画期的な発明として考案され、今も使用されている麻の種を蒔く播種機「ハシキ」は、栗野町で創案されたものです。

かつて、麻は衣類や生活用品として、織物ばかりでなく、紙や漁網、鼻緒の芯縄、釣り糸、大風揚げのたこ糸などに用いられ、さらには日本の伝統文化を支え、最も身近で、特別な繊維として、日本人の生活には欠かせないものでした。現在も普及率は減ったものの、様々な用途に用いられています。

麻と日本人との関わりは古く、縄文や弥生時代の遺跡から、麻縄や編み物などが出土しています。日本人にとって、麻は神秘的で神聖な力を持つものとされてきました。「天然繊維の中で最も強く、短期間で大人の背丈以上に真っ直ぐに育つ」この特性が強さや神聖さの象徴とされ、現在もしめ縄やお祓いの道具に使用されたり、地鎮祭で飾られたりしています。大相撲の横綱も麻で作られています。

麻は、大麻草とも言い、含まれる成分が人体に作用し、摂取すると陶酔感を覚えるなどの向精神作用があるため、悪いイメージを連想される方もいるかも知れません。麻栽培には毎年県知事の許可が必要で、実際に昭和40年代には、麻の盗難が問題となって、野州麻が心ない人々により存続の危機にさらされたこともあります。現在は、栃木県農業試験場の尽力により、品種改良された無毒麻の「とちぎしろ」が開発されています。

こうした関係者の皆さんや農家の方々の努力で、現在も鹿沼市が日本一の麻の産地を誇っているのだと思います。

鹿沼市内には、歌詞に麻が織り込まれた校歌や麻をモチーフにした校章の学校が数多くあります。麻のように強く丈夫に、すくすくと成長して欲しいという願いが込められているそうです。

（出典：鹿沼市ホームページ、栗野町誌「栗野の民俗」から引用）



【鹿沼市下永野の麻畑】

編集  
後記

いよいよ夏本番を迎えようとしています。

昨年は暑い夏を過ごしましたが、今年も5月から真夏並の暑い日が続き、関東甲信地方では昨年以上に暑くなるかも知れないとの予報もあります。熱中症対策などに留意され、暑い夏を乗り切りましょう!!

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>